

H25年度JAQG活動説明会アンケートでの主要なコメントへの回答

2014.1.31

コメント	回答
JAQGウェブに関し、例えば、問題点をフランクに討議する掲示板があればいいと思います。	ウェブ検討WGで検討致します。
力量管理に関する具体的なガイドライン等資料が参考配布されると良い。	力量管理に関する資料は、IAQGにて開発中です。公開され次第、要員能力検討WGにて翻訳を行い、翻訳版をJAQGウェブサイト公開する計画です。
納入ソフトウェアに対するQMS要求事項であるSJAC 9115規格について、より広く展開することを期待します。	9115規格の展開のためIAQGが作成した展開支援文書を和訳してJAQG HPIに公開する予定です。本文書は9115の内容補足、適用方法等について記述しており、9115の理解を深めるものと考えています。 また、9100次期改正に合わせて、9100シリーズ規格の一つとして9115も改正予定であり、今後、改正状況に合わせてより幅広く展開できるよう取組みます。
以下の活動の促進を希望します。 ・Nadcap ACの翻訳 ・SCMHの翻訳の促進	・今後も、ACの翻訳を促進していきます。ウェブに掲載されていないACで対訳版を希望される場合には、別途、特殊工程WGまでお問い合わせ下さい。 ・SCMHの翻訳も促進していきます。
SCMHについては、なるべく活動事例を追加して欲しい。	相応しい要領等があれば、今後の改訂作業に反映するように致します。
特殊工程検討WGの活動で、作業規格への意見反映にも取り組んで欲しい。	ご意見のアクション例として、本年度より、AMS熱処理工程スベック(作業規格)への意見提言を開始しております。今後、適宜、他の規格にも拡大していく方針です。
参加したい特定のワーキンググループがあります。	各ワーキンググループの状況に応じて、参加の打診をさせて頂くことがありますので、よろしくご依頼致します。また、参加の条件等につきましては、JAQG事務局にお問い合わせ下さい。
<p>・特殊工程審査では、サプライヤーメリットという制度がありますが、ISO審査では現在ありませんが、今後検討されてはでしょうか。</p> <p>・日本人(語)での特殊工程審査の可能性はありますか。</p>	<p>・特殊工程におけるサプライヤーメリットとは、認証の有効期限延長の制度のことと理解しますが、国際的にQMSの認証制度では1年毎の審査を実施することが規定されているため、それ以上の期間延長は認められていません。</p> <p>・現在、PRIには非破壊検査、材料試験ラボ、溶接の各分野に各1名の日本人監査員が居り、日本語での監査が実施されています。今後、日本人監査員がさらに増えるよう、PRI日本事務所に対し、支援を実施しています。</p>